

中国における社会ネットワーク研究の進展とその変化

——伝統的ネットワークから趣味ネットワークへ——

巴 芳

BA Fang

1 はじめに

20世紀前半の中国社会学界では、西欧の社会学理論およびイギリスやアメリカにおいて主流とされていた調査方法を用いて、当時の中国社会の様子を描きだしていた。呉文藻を代表とする社会学の中国学派は1930年代に誕生したといわれている。呉は当時、中国流の社会学理論の構築を目指し、社区研究の領域で社会学的人類学的な研究をおこない、中国社会学の発展に貢献した。

20世紀後半にいたると、中国社会学では多くの領域にわたって研究がおこなわれるようになり、都市や農村社会を分析する際によく応用される費孝通の「差序格局」¹⁾理論など、現代の社会学研究に大きな影響を与える研究が数多くなされた。それ以降、文化綜合学派、人口学派、農村社会学研究、社区研究、社会心理学研究などが展開されている。

社会ネットワーク研究と社会関係資本研究についても、国際的な社会学界の流れに沿うかたちで中国においてさまざまな議論がなされてきた。2003年から中国人民大学の調査データセンターによって「中国綜合社会調査」(CGSS)が開始されるなど、近年、中国国内および香港・台湾も含めて、農村や都市における社会ネットワークに関する様々な研究が注目されている。そこでは、欧米の社会ネットワークや社会関係資本に関する主要な理論の検討と、中国社会の実証的研究による解明と新たな課題の導出がおこなわれている。

本稿は、中国社会学においてこのように進展が見られる社会ネットワーク研究を概観し検討することを目的とする。伝統的な社会関係に注目してきた中国の社会ネットワーク研究であるが、改革開放以降の社会変動をふまえ、現在では新たな段階に入りつつある。特に、最近の中国社会における文化的ネットワークや友人ネットワークから生まれている社会関係資本は、人々の生活にアプローチする際に重要な論点のひとつとされている。そこで、中国の社会ネットワーク研究の大きな方向性をおさえつつその知見をまとめ、さらに今後の研究のいくつかの指針を見出すことが本稿のねらいである。

具体的には、次のような流れで論じていくことにする。まず、近代化以降も重視されてきた地縁・血縁などの基本的ネットワークおよび家族関係に関する研究について概観する。次に、ネットワーク研究の中で重要な位置を占める社会関係資本について、企業社会とのかかわりもふまえて述べていく。さらに、著しい変化が起きている農村社会と都市社会に焦点をあてた研究についてまとめる。そして、都市化によって個人の生活要求が高まるなかで、次々と形成されている新たな友人関係を中心とする弱い紐帯のネットワークに言及していく。

2 伝統的ネットワーク

——血縁・地縁および家族関係

2.1 地縁・血縁ネットワークへの注目

中国は世界有数の長い歴史をもつ多民族の国である。その伝統社会は非常に広い地域にわたり、時代による違いも存在するため、単一の社会として解釈するのは難しい。だが、大きな特徴をひとつ挙げるとすれば、中国では家族を基本とする独特の伝統的社会関係が形成されてきたことである。これは社会関係が個人中心に考えられてきた西欧諸国と対照的である。

「中国は農民の国だ」という認識のもとに農村社会の研究をおこなった費孝通は、伝統的な社会関係に注目し、「差序格局」「礼俗秩序」「血縁・地縁関係」という概念を提唱した。彼はその研究の中で、血縁や地縁が中国農村社会の中で中心的紐帯を形成し、人々にとって重要な価値を持つ資源になると論じた。また、伝統的なネットワークから結ばれる社会関係は波のようにだんだん広がっていくとともに、人々の合理的行為にも影響すると指摘した(費 1985)。すなわち、中国の農村における経済発展の背後には、家族を基本とする血縁・地縁の社会ネットワークが存在していたというのである。

転換期にある現代中国の都市では、これまでの血縁・地縁・業縁などのネットワークにかわって、個人レベルのネットワークが広がりつつある。また、それに加えて階層関係の複雑さも存在している。このような変化にあわせて費の理論は修正を加えられつつも、なおよく引用されている。例えば、発展社会学、組織社会学、工業社会学的な研究をおこなった李培林は、中国の農村が発展していく段階において、費の理論をより一般的なものとして適用しつつ、農村が都市へ変遷していく中で、血縁・地縁ネットワークが重要な役

割を果たしていることを指摘している(李 2004)。

また、周晓虹は、欧米の社会学の立場を踏まえつつ、中国の農村社会において、血縁・地縁の背後に郷地関係というさらに基本的な関係が存在すると主張した。周によれば、郷地関係とは、人と人の関係だけではなく、人と自然、農民と土地の関係をも含む、地縁・血縁よりも広い社会関係資本と位置づけられるものである(周 1998)。

たしかに、費の理論から現代の中国社会をみた場合、問題を単純にとらえすぎてしまう可能性はある。少なくとも、地縁・血縁ネットワークから生まれる自然的な関係は、今や主たる役割を担っているとはいえない。しかし、李や周の研究をみれば、血縁・地縁ネットワークは今もなお有効であり、現代の農村や都市ネットワークの発展に少なからず貢献している。

2.2 中国社会における家族ネットワーク

家族は、個人の社会関係が発展する原点だとされ、家族社会学の領域では多くの研究がおこなわれている。とりわけ、家族を大切にすることが伝統・習慣となっている中国では、家族関係から広がる社会関係が重要な位置を占めることになる。またそれは、費孝通(1985)が中国社会における血縁・地縁ネットワークの重要性を指摘している点からも推察できる。そこで次に、家族ネットワークに関する研究についてみておこう。

費(1985)は上述の研究のなかで、西欧の家族と中国農村の家族を比較・検討している。費によれば、当時の西欧社会における家族は夫婦関係を主軸とする集団であり、その中で子どもは時が来れば集団を離れるいわば脇役と位置づけられている。これに対し、中国の農村社会における家族では、成員数こそ少ないものの、父子間・母子間関係を主軸としており、夫婦関係が脇役となってい

る。そして、この父子間・母子間関係は持続性を持ち、ときには親族を介する大きな氏族ネットワークを形成すると費は論じている。

また、張宏明は、中国における社会ネットワークの中心的な問題になりうるものとして、家族関係を挙げている。そして、中国人は、地縁・血縁関係をもとに社会ネットワークを広げて、様々な社会関係を構築していると論じている（張 2004）。

さらに、中国では家族が企業を形成することも多いが²⁾、それに焦点をあてる家族企業の研究においても家族関係ネットワークの強みが注目されている。

一般的にいて、企業は経済的な組織であるため企業成員の個人的な目標と企業全体の目標との違いによる葛藤が起りやすい。ところが、豊富な社会ネットワークや社会関係資本を保有する家族企業は、家族企業内のそういった葛藤をある程度まで軽減することができる。このため、家族企業ネットワークの分析では、社会ネットワークや社会関係資本は家族企業の管理に効果的であることがしばしば指摘されている。

2.3 家族ネットワークにおけるジェンダーの問題

家族ネットワークに関する研究の中でも、ジェンダーに関わる問題は数多く取り上げられている。例えば、費は男女の区別がはっきりと設けられている中国農村社会では、男性を中心とするネットワークが構築されており、それは人々の心理や行為規範に影響を与えているという（費 1985）。また、周大鳴は、そのような農村社会において、女性が結婚前にもっている社会ネットワークは、結婚後には相手のネットワークに取って代わられることが多いと指摘している（周 2007）。

改革解放以降、中国では一般的に女性の社会的

地位の上昇がみられ、以前とは大きく異なってきた。それは農村女性においても同様であり、生活スタイルが変化していくとともに、職業をもつ女性がかかなり増えている。これにともない、農村女性の社会ネットワークにも大きな変化が起り、彼女ら独自の生活および職業上のネットワークが形成されつつある（周 2007）。

ところが、周によれば、このような経緯をもつ農村女性の社会ネットワークは、決して安定したものではないという。彼によれば、農村女性が保有するネットワークは（1）地縁と姻縁（結婚）から結ばれた社会関係が多いこと、（2）教育・技術・政治に基づく社会関係は乏しいこと、（3）特に、結婚して間もない女性はネットワークを形成しにくいこと、などを指摘し、彼女らのネットワークは総じて男性よりも脆弱なものになりがちであると指摘している（周 2007）。

以上に述べたように、中国社会では、基本的な構成要素としての家族から広がり、いろいろな新しい社会ネットワークが誕生し、個人的なレベルの社会関係が形成されていく。そのように形成される社会関係は、人々の生活において重要な役割を果たしていることが、家族関係に注目した研究から明らかにされている。ただし家族関係とはいっても、現代においても男女でその意味合いが大きく異なっている点には注意が必要だろう。

3 中国社会における社会ネットワークと企業の関連

3.1 社会ネットワークから得る社会関係資本

ところで、社会ネットワーク理論を用いた研究は、大きく2つに分けられると思われる。1つはネットワークの形成や構造に注目するものであり、もう1つは社会関係がもたらす資本、すなわち社会関係資本を論じるものである。社会問題や社会統合について何らかの解を求める際に、社会

における人びとの結びつきに注目することが多い中国では、2つのうち後者について頻繁に議論がなされている。

欧米の社会学者らはそれぞれ社会関係資本に関する概念を自身の研究領域に結びつけて定義し検討することが多い。そのようにさまざまな蓄積がなされた欧米の社会学における社会関係資本の定義はあらゆるところで引用されており、それは中国のネットワーク研究においても例外ではない。だが、先に述べたような独特の社会関係が存在する中国社会では、社会関係資本研究もまた独自の展開を見せている。

辺燕杰は、中国社会における社会ネットワークを介した就職プロセスに注目する研究をおこなっている。彼はその研究の中で、ネットワークの構造とともに弱い紐帯がもつ効果と強い紐帯がもつ効果のそれぞれを、社会資源や社会関係資本論、構造理論といった理論を用いて検討した。結果として、中国社会では弱い紐帯だけでなく強い紐帯も就職に対しては効果をもっていることが明らかにされ、その後のネットワーク研究や社会関係資本研究に具体的な構想を提供することになった(辺 1999: 110-138)。

羅家徳は、社会ネットワークと社会関係資本は密接に関連しているという立場から研究をおこなっている。彼によれば、一般的に中国社会においては、強い紐帯が多く存在するネットワークの中では重複する紐帯の数が多いのに対し、弱い紐帯が多く存在するネットワークでは重複する紐帯の数が少ない傾向があるという。さらに彼はそういった中で個人レベルの社会ネットワークと組織レベルのネットワークを分けたいうで検討をおこない、個人レベルのネットワーク間やネットワーク内に存在する、強弱どちらの紐帯においても相互の情報交換は綿密に行われていること、組織レベルのネットワークに存在しているブリッジは弱い

紐帯として働いていることを明らかにした(羅 2008)。

張文宏は、さらに階層論的な視点もふまえて社会ネットワークを研究している。彼は、社会関係資本は社会ネットワーク、具体的には社会構造の中で人々が行なう目的行動の中から生まれ、社会ネットワークと社会関係の中に存在するものである、と主張している。ただし彼は、同時に現代中国社会において社会関係資本がもつマイナス機能への認識が不足していることを指摘している。彼によれば、集団の利益としてネットワークから社会関係資本を得ることは、個人レベルの利益を犠牲にすることになるという(張 2008)。

中国のネットワーク研究においても、社会関係資本をどのようにとらえるのかについては、研究者によって立場はさまざまである。だが少なくとも、関係の頻度や親密さの程度など、それぞれの紐帯を比較することで知見を得ている点は多くの論者に共通している。そして、そのなかでも、個人のキャリアが発展していく際に、友人などとの弱い繋がりによって形成される社会関係資本がはたす重要な役割(張 2008)が、大きな論点として挙げられている。

また、羅(2008)や張(2008)の研究に見られるように、社会関係資本研究をミクロな視点とマクロな視点の双方で展開させている点もまた、中国における研究の大きな特徴の1つだといえる。

3.2 中国の企業および労働者における社会関係資本の機能

社会ネットワーク研究の中では、企業・職業などにおいて社会関係資本が果たしている役割を明らかにすることも1つの大きな検討課題となっている。現在の中国の市場は需供のバランスが崩れ、土地および自然資源などの価格変動が激しくなるなど、企業にとっては危機的状況を迎えてい

る。そのような状況の下、中国の社会学会では、ネットワーク研究が今後の中国企業の発展や成長を左右するものとして、大いに注目を浴びている。

実際、2007年に中国社会科学会の社会ネットワークと社会関係委員会が開催した「第3回社会ネットワークと社会関係管理に関する検討会」では、社会ネットワークと企業成長問題というテーマが取り上げられている。その中では(1)企業における信頼と社会ネットワークの問題、(2)新しい知識を生み出さる知識ネットワークの管理、(3)組織ネットワークと組織内での行為の管理、などといった点について議論がなされている。いってみれば、中国の社会学者たちは、中国企業の成長の問題に関わる研究を新しい段階に進めているのである。

社会関係資本もまた、企業の発展や成長に対して重要な要素となりうるものとして考えられている。先にも少し触れた辺燕杰は、企業の社会関係資本に関する研究もよくおこなっている。辺らは、広州にある188の企業に対して行った調査の結果から、企業における強弱それぞれの紐帯は企業の社会関係資本を形成・拡大する手段となっていることを指摘した。そして、その社会関係資本は企業の経営能力に直接的な影響を与えていることを明らかにしている(辺ほか 2000)。

企業レベルでの社会関係資本、すなわち企業社会関係資本は内部の管理と外部の経営活動から形成されるネットワークを介して得る信頼関係だと考えられることが多い。これに対して、個人レベル、すなわち労働者の社会関係資本は、仕事をとおした社会実践活動への参加から得る個人的名誉や社会関係である。こうした労働者の社会関係資本に関しても、いくつかの研究が見られる。

中国社会において、職業的地位を獲得する際に社会ネットワークが果たす役割は、社会関係資本

の主たる課題として研究されている。辺燕杰・張文宏は、天津における労働力の移動に関する調査をおこない、職業資格審査が比較的厳しいなかで、流動する労働者は社会ネットワークを介して情報を獲得し、人脈を形成していることを明らかにした。それはつまり、強い紐帯は市場の転換過程のなかでも効力をもちつづけることを意味し、ひいては社会ネットワークが強い社会関係を通じて中国の再分配体制の具体的な計画にまで影響を与えることになる、と述べている(辺・張 2001)。

趙延東(2002)は、武漢市で仕事を失った職員たちが再就職する過程の事例分析を通して、社会転換期における社会関係資本と人的資本(教育を受ける程度)の機能やその変化を検討した。調査結果から、仕事を失った70%の職員たちは再就職する際に社会ネットワークの手段を利用していることが明らかになった。そして、社会関係資本のそうした機能が最も際立つ段階とは、労働市場がまだ建設されていない時期だと述べている(趙2002)³⁾。

中国における社会学研究の流れでは、社会関係資本とは、信頼や互酬性の規範からなりたつ社会ネットワークと、そこに埋め込まれた社会的資源としてとらえられている。そして、企業組織レベルの社会ネットワークと社会関係資本は、企業間での継続的な取引や協力の関係においても大きな意味をもってきた。また近年、国際的にも国内的にも、複数の企業が協力して事業を展開するという企業間ネットワークを有効に利用する戦略が一般的になっている。つまり、企業の社会関係資本は、中国社会の経済を効率化し、企業発展を促進させるさまざまな機能を果たしているといえよう。

また、特に最近では、仕事上の支援ネットワークの研究が多くなされてきている。例えば、趙方杜・夏麗は、支援ネットワークによって中国現代

企業において仕事を獲得する過程を論じている(趙、夏 2009)。こうした支援ネットワークも、中国企業の成長を左右しうるものとして注目を浴びている。

4 現代中国における地域社会のネットワーク

現代の中国社会では、急速に都市化が進んでいる。都市に住む人々がもつ社会ネットワークは、もはや農村におけるそれとは大きく異なったものとなっている。また、都市社会では今までに見られなかった新たなネットワークも生じてきている。

そこで次に、社会支援ネットワークに焦点をあて、伝統的な農村における研究との違いを明確にしつつ、都市における研究をまとめよう。それとともに、都市で生まれてきた新たなネットワークに関する研究についてもまとめることにしよう。

4.1 農村における社会支援ネットワーク

近年、中国の農村では、農民が従来よりも自由な立場になり、自ら発展するために市場競争に参加することが可能になった。それにともない、農民たちがもつ社会ネットワークも今までのものとは異なってきている。例えば、都市に移動した農民がもつネットワークは、かつての強い紐帯で結ばれた伝統的な血縁・地縁などの基礎ネットワークから弱い紐帯で結ばれたネットワークへと変化している。また、中国の市場経済が発展するにつれて、農村における社会関係資本も新しいものへと変化している。要するに、中国の農村では人々の社会ネットワークが著しい変化を見せているのである。そこで、次に、農村から都市へという動向の中での社会ネットワーク研究についてみていくことにしよう。

中国農村をフィールドとする社会ネットワーク

研究では、ネットワークの中でも社会支援ネットワークに注目するものが多い。例えば、張文宏の調査チームは、天津の農村をフィールドとして、社会支援ネットワークに注目した質問紙調査をおこなっている。そしてその結果から、天津の農村の支援ネットワークは収束性が高く、異質性が低く、緊密性が高いといった特徴を示すことが明らかになっている(張・阮 1999)。

劉軍は多くの欧米の研究をふまえ、中国北方の農村における社会関係を全体的な視角から検討すべく質的および量的な研究をおこなっている。その中で彼は、中国農村の研究では「二人関係」や「三人関係」といった視点での研究が多いが、それらにとらわれず支援ネットワークの全体構造にも注目した研究が必要だと述べている。その上でさらに、支援ネットワークの中に、支持関係だけでなく、中立関係やマイナス関係も存在しており、それぞれ農村での生活において影響力をもっていることを明らかにしている(劉 2006)。

農村社会学および社会ネットワークの研究をする賀寨平(2004)は、農村のなかでも高齢者の社会支援ネットワークに注目して、その構造や社会的地位と社会支援ネットワークの関わり、および社会支援ネットワークが高齢者におよぼす心理的・健康的な影響と効果を検討した。その中でも特に、配偶者の支援度は高齢者の生活満足度と健康状態に強い影響を与えており、また、高齢者は社会支援ネットワークに依存していることが明らかにされている(賀 2004)。

中国における人々の社会生活や社会移動の様子は都市よりも農村の方が単純であるが、農村の間にも村落間格差が存在する。この点においても、費孝通の研究、中でも彼の「差序格局」という概念を抜きにして語ることはできない。ここで紹介した研究のうち、劉軍(2006)の研究は「差序格局」という概念をさらに深めて補完するものであ

る。そして、さまざまな研究結果から、欧米の社会学における知見とは異なる、中国農村独特の結果がもたらされているといえるだろう。

4.2 都市における支援ネットワーク

都市と農村の支援ネットワークを比較することに興味をもつ中国研究者は、中国においても社会支援ネットワーク研究の進展につれて増えてきた。張文宏・阮丹青は、農村住民と都市住民の支援ネットワークの比較研究から (1) 親族が社会支援ネットワークの中で非常に重要な機能を担うことは都市・農村に共通であること、(2) 親族が経済支援ネットワークの重要な役割を果たすのは、農村において顕著であること、(3) 友人が精神的な支援ネットワークの重要な機能を果たすのは、都市において顕著であること、などを明らかにしている (張、阮 1999; 2001)。

李沛良らは、家族関係に注目した研究をおこない、香港と北京の住民の支援ネットワークに関する調査をおこなっている。その結果、近親は支援を提供する際に重要な機能を発揮しており、核家族の関係が香港と北京の住民支援ネットワークの中で最も重要であることが明らかになっている (李ほか 2001)。

また、中国社会では少子高齢化が年々進行しており、これにともない都市社会における高齢者の支援ネットワークを分析する研究も多くなされてきている。劉精明らは、社会階層や人口流動といった視点をふまえ、北京とリバプールのそれぞれにおける高齢者支援ネットワークの特徴を捉え、文化背景が異なる2つの都市の共通点や相違点を検討している。そして、北京とリバプールは背景の違いによる影響はあまりないが、高齢者の共通点が多く、支援ネットワークも類似している。そして、北京では高齢者の教育レベルは他の国よりやや高いものの、男性より女性の教育レベルが低

いため、高齢者支援ネットワークが家族に依存しやすいことを明らかにしている (劉、Wenger、G. Clare 1998)。

李沛良ら (2001) の研究では、政治制度と社会発展のリズムが異なるにも関わらず、2つの都市の間で個人支援ネットワークの形成プロセスが非常に似ていることが示されており、こうした傾向は多くの中国の都市部に共通したものであるという。さらに、劉ら (1998) の研究からは、中国都市部の社会的ネットワークは、欧米の都市部におけるネットワークとの類似性が示唆されている。この欧米社会との類似性は、中国都市部における社会的ネットワークの特徴だといえる。

また、現在、中国都市部では、改革開放以後の政策的変化に伴い「社区」建設と呼ばれる基層管理体制の改革が進められている。今後の中国都市部においては、こうした「社区」が大きなインパクトを与えるものになると考えられている。それゆえ、こうした「社区」は、都市部のネットワークを大きく変容させる可能性があり、新たに独特な傾向がもたらされるかも知れない。いずれにせよ、今後「社区」に関わる社会的ネットワークについての研究には注目する必要があるだろう。

5 社会ネットワーク研究の新たな可能性 ——パーソナルネットワークへ

既に述べたとおり、中国社会では血縁や地縁、あるいは家族などの伝統的なネットワークが現在も重要視されており、基本的なものとして他のネットワークを支えている。しかし近年、ネットワークの多様化につれてそれらの重要性は減少しつつある。反対に重要性が増していると考えられているのが、友人関係など個人レベルでの弱い紐帯から結ばれる関係である。たとえば、前に紹介した張・阮 (1999) の天津における調査結果からも、地縁・業縁ネットワークだけでなく、友人ネ

ットワークも重要な結節点になっていることが示唆されている。

こうした個人レベルのネットワークは、中国社会の中で新たな動きを見せるものであり、今後も重要になると考えられる。そこで、最後にこうした個人レベルのネットワークに関する動きをまとめ、今後の研究の方向性について検討することにしてしよう。

5.1 パーソナルネットワークへの注目

(1) 相談ネットワーク

中国人民大学が2003年からおこなっているCGSS調査では、相談ネットワークに関する質問が設けられ、分析がおこなわれている。2003年の調査結果では、(1) 相談相手としては、家族がもっとも多い(54.9%)が、2番目には友人(17%)と回答する者が多く、親族は3番目となっている、(2) 男女別で相談相手を見てみると、男性にとって第1の相談相手は女性であり、女性にとっての第1の相談相手は男性となっている、(3) 相談する問題の内容としては、解決すべき具体的な恋愛/生活/仕事上の問題が中心である、などが明らかにされている(中国人民大学調査与数据中心 2009)。

この中でも興味深いのは、相談ネットワークの中で友人が親族や仕事上の同僚より優先されている点である。経済と文化の発展にともない、家族に代表される旧来のネットワークだけでなく、友人関係というパーソナルネットワークが人々の生活の中で拡大し、重要な位置を占めるようになってきている様子がここから見てとれるのである。

(2) 拜年ネットワーク

中国において社会ネットワークを検討する際に、「関係」を大切にしている中国人の日常生活や習慣に着目して議論をおこなう研究者が多い。その中でも、近年、拜年ネットワークに関する研究が

おこなわれてきている。

拜年ネットワークとは、最も伝統的な祭日である春節期間に、人々が新年の挨拶をおこなう際の社会ネットワークのことを指す。これは中国の伝統文化の下で人々が人脈関係を維持し発展させるための独特なネットワークといえる。この拜年ネットワークに関しても、日常生活の重要な問題を相談するネットワークと同様に、個人レベルのつながりが広がりつつある傾向がみられている。

中国人民大学の調査データセンター(2009)では、CGSS 2003、CGSS 2006のデータを用いて、拜年する対象の構成と数の比率が検討されている。その結果、親戚は拜年ネットワークの中で、なお主な部分ではあるが、その次には友人が挙げられている。しかも、2006年では2003年よりも友達の割合が増加してきていることが明らかとなった(中国人民大学調査与数据中心 2009)⁴⁾。

相談ネットワークだけでなく、拜年ネットワークにおいても、友人関係が重要性を増してきている。このことから、友人ネットワークが重要な社交手段になりつつあるという先に述べた傾向は、中国社会において広く当てはまる可能性を示しているといえるだろう。

(3) 家族

2で触れたように、家族関係は中国社会において最も基本的な社会関係となっている。その家族関係からも、パーソナルネットワークの形成の動きが見られる。

家族を大切にしている半面、現代中国では、個人の自立と自己責任の確立、自由と安定の両立が求められている。そこで、このような個人の自立を支援し、自由な個人を結びつける新たな社会ネットワークをつくる必要が出てくる。すなわち、伝統的家族関係を基盤としながらも、そこから新しい個人レベルのパーソナルネットワークが形成される可能性が出てくるのである。

近年、「社区」活動団体等などの新しい組織・ネットワークが現れ、それらが中国の人々のある種のよりどころとなっている。従来の家族関係を保持しつつ、生活の場以外で形成されるこうした友人ネットワークは、上記の新たなネットワークの最たる例だと考えられる。これまでの生活の場に比べ、開かれた場であるこのような集団ネットワークは、人と人との新しい交流の場として、また、中国都市の市民意識の発露の場としてのさまざまな可能性を有しているといえよう。

5.2 階層論的な研究とその限界

また、既に若干指摘したが、社会ネットワーク研究では、社会階層を射程に含む検討が多くおこなわれている。

張文宏は、都市市民の相談ネットワークの構造を検討する際、そのネットワークの特徴と形態は所属する階層によって異なるという仮説のもとに実証をおこなっている。調査データから、各社会階層に属する人々により、相談ネットワークの構造および相談内容、コミュニケーションのとり方にはかなりの違いが存在している。そして、個人の特性よりもむしろ、社会的地位のほうがネットワークの特徴を決定する要因となっていることを主張した（張 2006）。

拜年ネットワークについて検討をおこなった辺燕杰も、類似の指摘をおこなっている。彼によれば、階層間の拜年ネットワークは階層内のそれほど緊密ではなく、階層ごとにその形態もかわってくることを明らかにしている（辺 2004）。

また、辺燕杰・李路路も、CGSS データの分析を通して、農村社会の階層構造や変容について論じている。その中で彼らは、都市や農村のパーソナルネットワークの拡大とその発達は、社会の流動性を促進すると主張している（辺燕杰、李路路 2008）。

張文宏をはじめとする研究は、社会ネットワーク研究における階層論的な研究の重要性を指摘するものである。たしかに以前の中国社会では経済格差が大きく、日常生活の水準にもかなりの差があったため、人々のネットワークも限定的なものになりがちであった。そしてその後、経済発展によって低い階層に属していた人々が徐々に上に移動していくにつれ、そのような階層内ネットワークにも限界が生じている。こうした意味では、階層論的な視点は重要であるといえる。

だが、経済発展がさらに進むと、中流階層の範囲がさらに拡大し、多くの人々が中流階層に属するようになる。そうになると、これまではそれぞれに大きな特徴を生み出していた階層格差があまり意味をなさなくなる可能性がある。つまり、今後の中国社会においては、社会ネットワークの階層間の差異に関する検討だけではなく、階層内部での多様性にも注目する必要があるといえるだろう。

5.3 趣味ネットワークの可能性

以上、中国における社会ネットワーク研究を概観してきた結果、パーソナルネットワークの広がりという大きな流れのあることが明らかになったが、さらに新たな可能性をもつものとして趣味ネットワークをあげることができる。

中国経済が発達するにつれて市民の余暇生活も豊かになり、人々は余暇時間を重視するようになってきた。その中で、仕事あるいは勉強以外の、趣味のためのクラブやサークルに参加する者が急速に増えてきた。現代の中国社会、特に都市部においては、趣味のため余暇時間を利用することが、市民の精神的な健康をもたらしているのである。

近年の中国において、趣味活動として最も頻繁におこなわれているものといえば、スポーツであ

る。特に、最近の中国都市社会では、社区において市民が自発的につくるスポーツサークルなどがたくさん現れてきている。

スポーツに関して大きな注目がなされていることは、研究の面でも同様である。2008年に北京でオリンピックが開催されたこともあり、中国のスポーツ社会学⁵⁾も研究領域や研究範囲を拡大し、研究者も増えてきた。例えば、スポーツ文化に関する研究者である韓春利は、中国社会におけるスポーツの発展や、スポーツ運動からおこる社会現象を取り上げ、中国社会の発展におよぼす影響について論じている（韓 2008）。

さて、趣味に割く時間が多くなればなるほど、当然ながらそうした生活の中で形成されるネットワークにも変化が生じることになる。すなわち、趣味のためのクラブやサークルなどの中で形成されるネットワークが増えていくことになる。さらに、その趣味の活動に重きが置かれるようになればなるほど、そこでのネットワークというものがまた、人々の生活の中で重要な位置を占めるようになるのである。

そして、趣味によって形成されるネットワークは、人々を緩やかに結びつける新しい社会関係を形づくる。人々は趣味活動の楽しさゆえに、ネットワークに参加する。したがって、旧来の伝統的な社会関係に比べ、より緩やかなつながりが生じることになる。しかし、緩やかではあるがネットワーク内でのコミュニケーションは活発なものであり、人々の心を繋がりやすくする。さらにコミュニケーションの浸透により、社会生活に関する便利な情報を得やすくなるという、情報交換の手段としても機能するようになるのである。

「趣味ネットワーク」とも呼ぶことができるこの新しいスタイルの社会ネットワークは、個人が自らの趣味のために参加するクラブやサークルを通じて形成されるため、友人ネットワークの一部

として位置づけることができる。しかも、人口が集中している都市部においては、人々が伝統的な人間関係から解放されることにより、社会ネットワークは個人により選択されるようになってきている。それゆえ、趣味ネットワークのような緩やかな友人関係は、現代の人々にとって非常に重要なものとなりうる。自己実現の「場」を求めスポーツなどの趣味活動へ参加する現代中国の人々にとって、そのネットワークがさらに彼らの社会生活を豊かにしていく可能性が大きいといえるのである。このような視点からの研究は、今後の社会ネットワーク研究の中でも重要なものとなるだろう。

6 おわりに

本稿では、中国社会学における社会ネットワーク研究に関して、様々な視点から検討してきた。今までの社会ネットワーク研究を振り返ってみて分かることは、かつては集団的なものにとらえられていたネットワークが、個人的なものとしてとらえられるようになってきた、という大きな流れが存在していることである。

血縁や地縁あるいは家族ネットワークといったものは、かつて何よりも基本的なものとして存在し機能していた。しかし、時代が進むにつれてその機能はだんだん縮小していき、現在では個人的なネットワークを生み出す基盤としての機能もつにいたっている。つまり、集団的な側面における機能だけでなく、個人的な側面における機能もまた重要な役割を果たすようになってきたのである。中国社会が伝統的農村を中心とするものから都市を中心とするものへと変化していく流れに沿う形で、こうした転換が起こっているといえる。さらに、ネットワークのこのような変化を受け、社会関係資本に対しても、集団的だけでなく個人的なものとしてとらえる研究も出てきている。

そして、こうしたパーソナルネットワークへの転換の中で、本稿では趣味ネットワークというのが今後重要な論点となる可能性を示した。経済発展とともに都市化が進む中国社会における人々の社会ネットワークを論じるうえで、「緩やかな友人とのつながり」という新たな視点をもった研究が重要になるだろう。個人主義と自由への志向が強い中で、相互信頼を形成するために、趣味ネットワークは重要な社会的基盤となりうる。また、集団ベースの硬いものではなく、緩やかな個人ベースの社会関係資本として個々人に与える影響は少なくないと考えられる。現在のところ、このような趣味ネットワークに関する研究はほとんどなされていないが、今後さまざまな研究が生まれてくることが期待される⁶⁾。

ただし、独自性と多様性を兼ね備えた中国人社会における社会ネットワーク研究を、欧米に代表される一般的なネットワーク研究の中に位置づけることが、残された大きな課題だといえる。特に地域の変化や趣味ネットワークの発達など、中国特有の問題が、どのように位置づけられ何を意味しているのかを明らかにすることは、中国の社会ネットワーク研究を進めていくにあたっての重要な課題である。こうした問題に取り組むことで、グローバル化によって21世紀の社会共通の課題となった「多文化共生」という大きなテーマに対して、中国のネットワーク研究が今後果たすべき役割が明らかになると考えられる。

〔注〕

- 1) 「差序格局」とは、中国人の自己を中心とする強弱関係を説明する概念である。詳しくは、費（1985）を参照されたい。
- 2) 現代の中国においては、家族企業は、家族関係、あるいは経済関係の具体的な表現形式の1つだといえる。この家族企業というシステムは、中国の経済と文化の発展を受け、今後も長期的に発展していくことになり、特に経済の現代化

- が進んできている農村部では、家族経済および家族企業が大規模に形成されると考えられる。
- 3) 人的資本に関してはこうした主張に異を唱える立場もある。例えば、李培林・張翼（2003）は、人的資本は再就職の過程で機能しない面もあると述べ、人的資本は再就職にそれほど効果をもたないと主張している。
 - 4) CGSS 2003、2006 の拜年する対象構成と数量（%）：

	2003			2006		
	親戚	友人	その他	親戚	友人	親戚
0人	6.7	25.7	70.7	5.6	16.8	46.8
1-5人	18.7	28.3	11.3	18.4	33.8	21.2
6-10人	28.4	25.5	9.2	34.9	30.8	19.7
11-15人	13.4	6.1	1.9	11.7	6.2	2.7
16-20人	16.7	7.1	3.0	16.4	8.3	5.4
20人以上	16.4	7.2	3.9	12.9	4.1	4.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
サンプル量	5837	5716	5390	5580	5568	5390

（中国総合社会調査（CGSS）2003、2006）

- 5) スポーツ人文社会学とは、スポーツ教育・スポーツ社会学・スポーツ管理学・スポーツ心理学・スポーツ宣伝学などを研究領域とするものである。なかでもスポーツ社会学では、スポーツが人々日常生活の中で存在する重要性が、社会学理論を応用して論じられている。
- 6) ちなみに、中国本土における研究ではないが、日本における在日中国人社会を対象とする研究はおこなわれている（巴芳 2009）。そこでは、日本における在日中国人が参加する趣味ネットワークに対しておこなわれた調査結果をもとに、在日中国人の個人レベルのネットワークとして新しく展開してきた趣味ネットワークについて論じられている。結果として、趣味ネットワークは在日中国社会および中国本土でも広がっていること、緩やかなつながりで形成されるネットワークが、メンバーの生活において重要な機能を果たしていることが明らかにされている。その上で、これから文学・音楽・スポーツ・芸術などの領域にも増えていくと予想される趣味ネットワークについて、時代と地域とともに変化する中国社会ネットワークとして、新たな理論と方法を模索しつつ、その実態を究明する必要性が指摘されている（巴 2009）。

〔参考文献〕

(中国語)

- 辺燕杰、1999、「社会网络与求职过程」、林益民・涂肇庆『改革开放与中国社会：西方社会学文献述评』香港：牛津大学出版社
- 辺燕杰、丘海雄、2000、「企业的社会资本及其功效」『中国社会科学』第2期
- 辺燕杰、張文宏、2001、「经济体制、社会网络与职业流动」『中国社会科学』第2期
- 辺燕杰、2004、「中国城市中的关系资本与饮食社交：理论模型与经验分析」『开放时代』2004年第2期
- 辺燕杰、李路路、2008、『制度转型与社会分层（基于2003年全国综合社会调查）』中国人民大学出版社
- 韓春利、曹莉、孫晋海、王秋華、2008、「我国体育人文社会学发展现状、问题与对策研究」『北京体育大学学报』2008年31(9)
- 賀賽平、2004、『社会网络与生存状态－农村老年人社会支持网研究』中国社会科学出版社
- 李沛良、2001、『社会研究的统计应用』社会科学文献出版社
- 李沛良、阮丹青、張文宏、2004、「城市居民社会网络的阶层构成」『社会学研究』第6期
- 李培林、張翼、2003「走出生活逆境的阴影－失业下岗职工再就业中的“人力资本失灵”研究」『中国社会科学』2003年第5期
- 李培林、2004、『村落的终结－羊城村的故事』商务出版社
- 李培林、李強、馬戎 編、2008、『社会学与中国社会』社会科学文献出版社
- 李培林、2008、『中国社会和谐稳定报告』社会科学文献出版社
- 李培林、渠敬東、楊雅彬 編、2009、『中国社会学经典导读（上、下册）』社会科学文献出版社
- 中国社会科学院社会学研究所 景天魁 編、2004、『中国社会学年鉴1999～2002』社会科学文献出版社
- 劉精明、Wenger, G.Clare、1998、「北京老年人社会支持网调查」『社会学研究』第2期
- 劉軍、2006、『法村社会支持网络：一个整体研究视角』社会科学文献出版社
- 罗家德、2008、「社会网络和社会资本」李培林、李強、馬戎 編、2008、『社会学与中国社会』社会科学文献出版社
- 周小虎 編、2008、『中国社会学网络与社会资本研究报告2007～2008』经济管理出版社
- 楊建梅 編、2009、『中国社会学网络与社会资本研究报告2008～2009』中国青年出版社
- 中国人民大学調查与数据中心、中国综合社会調查（CGSS）項目、2009、『中国综合社会调查报告2003～2008』中国社会出版社
- 周大鳴、2007、「技术与社会网络资本－关于中国农村妇女社会网络资本的研究视角」『湖北民族学院学报（哲学社会科学版）』2007年第6期
- 趙延東、2002、「再就业中的社会资本：效用与局限」『社会学研究』第4期
- 趙延東、罗家德、2005、「如何测量社会资本 一个经验研究综述」『国外社会科学』2005年第2期
- 費孝通、1985、『鄉土中国』北京三聯書店
- 周晓虹、1998、「流动与城市体验对中国农民现代性的影响－北京“浙江村”与温州一个农村社区的考察」『社会学研究』第5期。
- 張宏明、2004、「宗教的再思考－一种人类学的比较视野」『社会学研究』第4期
- 張繼焦、2005、「差序格局：从“乡村版”到“城市版”」『中国社会科学院院报』
- 張文宏、阮丹青、1999、「天津农村居民的社会网」『社会学研究』第2期
- 張文宏、阮丹青、1999、「城乡居民的社会支持网」『社会学研究』第3期
- 張文宏、2006、『中国城市的阶层结构与社会网络』上海人民出版社
- 張文宏、2008、「社会转型过程中的社会网络资本的变迁」『社会』上海大学出版 第28卷 第3期
- 趙方杜、夏麗、2009 「青年农民工的社会支持网与职业获得」『青年探索』2009年第3期

(日本語)

- 巴芳、2009、「在日中国人の新しいネットワークと社会関係資本の形成分析－大阪国際FCの事例から」同志社大学社会学研究科2008年度修士論文。
- 野沢慎司編、2006『リーディングス ネットワーク論－家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房。

(英語)

- Bott, Elizabeth. 1971, *Family and Social Network* (2nd ed.) Free Press
- Burt, Ronald S. 2001, "Structural Holes versus Network Closure as Social Capital." in Nan Lin, Karen Cook, Ronald Burt (Eds.). *Social Capital: Theory and Research*. Aldine de Gruyter
- Coleman, J. S. 1990, *Foundations of Social Theory*. Harvard University Press.
- Coleman, J. S. 1988 "Social Capital in the Creation of Human Capital." *American Journal Sociology*, 94: S 95-S 120
- Granovetter, Mark S. 1973. "The Strength of Weak Ties." *American Journal of Sociology*, 78: 1360-1380
- Lin, Nan, 1973, *The Study of Human Communication*. Indianapolis: Bobbs-Merrill.
- Lin, Nan, 1982, "Social Resources and Instrumental Action." in *Social Structure and Network Analysis*, edited by P. V. Marsden and N. Lin. Beverly Hills. CA: Sage.
- Lin, Nan, 1994, "Action, Social Resources, and the Emergence of Social Structure: A Rational Choice Theory." *Advances in Group Processes* 11.
- Lin, Nan, 2001, *Social Capital: A Theory of Social Structure and Action*, Cambridge University Press
- Liu Hong and Liao Chiyang 2006 "Network, Identity, and Ethnic Chinese Studies: Towards a Re-examination of Regional Orders in 20th Century East Asia" 『東南アジア研究』43 卷 4 号
- Putnam, R. D., 1993, *Making Democracy Work*, Princeton Univ. Press. (= 2001, 河田潤一訳『哲学する民主主義 - 伝統と改革の市民構造』NTT 出版.)
- Putnam, R. D., 2001, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster. (= 2006, 柴内康文訳『孤独なボウリング - 米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房.)
- Wellman, Barry and Leighton, Barry. 1979 "Networks, Neighborhoods, and Communities; Approaches to the Study of the Community Question." *Urban Affairs Quarterly* 15
- Wellman, Barry and S. D. Berkowitz. (eds.) 1988. *Social Structures: A Network Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.
- White, H. C., Boorman, S. A. and Breiger, R. L. 1976. "Social Structure from Multiple Networks. I. Blockmodels of Roles and Positions." *American Journal of Sociology* 81.
- Wasserman, S. and Faust, K. 1994. *Social Network Analysis: Methods and Applications*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Zhang, Wenhong and Danching Ruan, 2001. "Social Support Networks in China: an Urban-Rural Comparison." *Sociology Sciences in China* 2.